

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価 (及び地域公共交通計画の評価結果) 概要(全体)

中津川市公共交通会議 (中津川市)

平成20年6月4日設置

令和3年6月18日 フィーダー系統 確保維持計画策定

令和4年1月20日 中津川市地域公共交通計画へ移行
(計画期間：平成30年4月～令和9年3月)

令和6年1月12日 令和5年度評価結果送付

1.【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

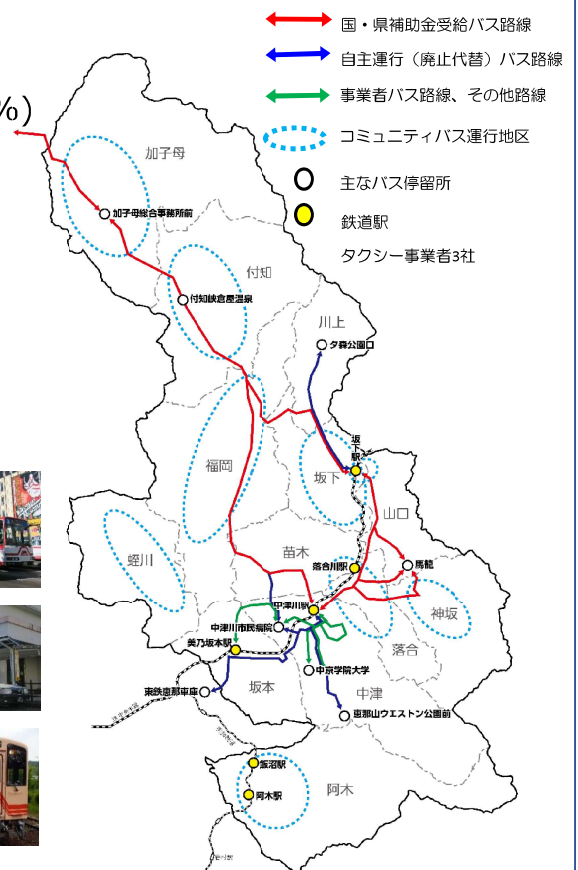
2

中津川市の地域公共交通を取り巻く課題

- ①利用者の減少で**地域公共交通網の維持が困難**に
 - ✓ 人口減少・高齢化(国調△2,313人、高齢化率32.9%)
 - ✓ 東濃鉄道(株)が市内から撤退
 - ✓ コロナ感染症拡大により移動需要が減少
- ②誰もが**わかりやすい公共交通となっていない**
 - ✓ バスを利用する外国人旅行者に対する案内不足
 - ✓ バスによるおでかけ情報発信が不十分
- ③**運転手不足**で地域公共交通網の維持が困難に
 - ✓ 運転手高齢化、現役世代引退後に労働力不足の恐れ

中津川市地域公共交通計画(2022.1改定)

- 基本方針
 - ✓ **住んでよかった、住んでみたい街に**
- 目標
 - ✓ 住み続けられる街に
～定住を支える公共交通
 - ✓ 来てよかった、また来たい街に
～観光と利用促進
 - ✓ 運転手不足解消に向けて
～誰もが活躍する街に
- 期間
 - ✓ 2018年度～2026年度までの9年間



目指す姿とは

利用者を確保し地域公共交通網を維持。公共交通で安心して移動できる。そして…
いつまでも定住できる街に！住みたくなる街に！

■ 地域公共交通計画に基づいて実施する20事業

目標	計画で掲げる主な事業
①定住を支える公共交通	高校生バス通学支援、パーク&ライド、地域公共交通の運行継続、明知鉄道の運行支援、安全安心なバス停環境の整備 など
②観光と利用促進	公共交通を使った市内観光の推進、インターネットによる経路検索の充実 など
③運転手不足の解消	運転手採用相談会 など

■ 2022-2023年度に実施した主な取り組み

神坂コミュニティバスの再編

②利用促進 より利用しやすい路線に再編！

- 2024年1月頃から神坂スマートIC工事に伴う通行止により、神坂地区から市街地へ向かう公共交通がなくなり、買い物や通院ができなくなる。
- コミュニティバスを延伸し、神坂地区と落合地区を繋ぐ路線に再編。

実績

R4.8～ 地元協議（7回）
R5.9.26 公共交通会議での承認
R6.1.5～ 運行開始



今後

利便性の拡大により、利用者が増加することが期待される

★コミュニティバス無料定期券の配布

②利用促進 まずは乗ってみることから！

- コミュニティバスの利用率が低い福岡地区、付知地区において、希望者にコミュニティバスの1ヶ月無料定期券を送付。
- コミュニティバスの利用促進のため、気軽に乗車できる機会を創出した。

実績

22人に無料定期券を送付
⇒期間中に延べ40人が定期券を利用



考察

利用低迷地域での新規利用者獲得の一助となった

■ 2021-2022年度の取り組み… 高校生バス通学補助金の拡充

高校生がバスで通える街に！

高校生バス通学補助金の補助額を拡充。

（定期代－10,000円（月当たり））÷2 → （定期代－6,000円（月当たり））÷2 ※千円未満切捨
⇒対象区間が拡大し、補助金申請者数が増加した（142人 → 167人）。

新たな定期利用者の確保につながった。

2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

■ 各事業の進捗状況

事業名	実施状況	実施内容・未実施理由
1-1 高校生のバス通学を支援します	【継続実施】	高校生に通学バス定期代の補助を行いました。（11月末時点：120人 10,401,000円）満足度95.7%
1-2 高校生のバス通学者を増やします	【継続実施】	通学者補助の継続による利用者増（1-1参照） 北恵那バス沿線地区内高校生数 R4：580 R5：551 R6：534 翌年度利用者となる中学3年生を対象に校長会等で資料配布予定。
1-3 市民病院行きバスの乗り継ぎを円滑にします	【継続実施】	R5は変更なし。次年度以降改正に合わせて実施します。 中津川駅発・市民病院行きのバスは、他路線のバスが到着した後に出発するよう調整。 運用上、可能であればバスを乗り換え無く同じ車両が市民病院へ向かうように調整。 直接、乗り入れる便を運行中（坂本三坂線・加子母付知線）
1-4 パーク&ライドで地域公共交通の利用を推進します	【継続実施】	パーク&ライド駐車場を付知地区に設置し継続実施中。 高齢者で免許を返納するまでもないが、地区外への長距離運転に不安がある方には有益であるため継続中。利用者が少ないため今後のPR方法を検討。
1-5 地域公共交通の運行を継続します	【継続実施】 【随時】	路線バスと市内9地区にコミュニティバスを継続運行。 自主運行バス（廃止代替含）4路線を継続運行 神坂地区 県道通行止による路線バス迂回運行の影響により、落合診療所まで延伸しR6.1～運行を開始します。 落合地区 R6.10改変に向け検討委員会の委員に試乗会を実施。
1-6 タクシーを活用したおでかけを推進します	【休止中】	R元年度、苗木地区でグループタクシーの実証実験を行ったが、利用者が少なく実施を見送り。
1-7 明知鉄道の運行を支援します	【継続実施】	明知鉄道経営改善事業などの支援を継続。 阿木コミュニティバスの時刻表を明知鉄道の駅時刻にあわせ改正。
1-8 路線バスとコミュニティバスの乗り継ぎ割引を行います	【休止中】	利用者が非常に少なかったため休止。 （改善・廃止検討対象）
1-9 免許返納者へのタクシー割引制度を継続します	【継続実施】	タクシー事業者により、運転免許返納者に10%の割引を継続中
1-10 安全・安心に利用できる地域公共交通を目指します	【継続実施】	駅前4番バスレーンを大型バスが安全に進入できるよう改良。 【継続実施】車両を更新する際には、低床バスやUD（ユニバーサルデザイン）タクシーを導入を進めます。

■ 各事業の進捗状況

事業名		実施状況	実施内容・未実施理由
2-1	観光資源を生かした地域公共交通を運行します	【継続実施】	ゴールデンウィークと秋の観光シーズンに苗木城跡直行便を運行。 各バス停などの多国語表示を検討。
2-2	地域公共交通を使ったおでかけ情報を発信します	【継続実施】	観光パンフレットなどに、最寄りのバス路線・時刻表を記載を依頼。 観光パンフ（いいとこやらかなつがわ）に苗木城跡直行便の時刻表掲載。 ひと・まちテラスHPに最寄りバス停と路線バスのリンクを掲載。R5.7 同施設デジタルサイネージに最寄り淀川バス停の時刻表を掲示
2-3	路線バスの企画切符を発行します	【継続実施】	・苗木城フリー乗車券（GW347） ・馬籠線フリー切符（69） ・がくせいホリデーきっぷ（1,581） ・おんぼいの湯入浴セット券（230）
2-4	ラッピングバスやデコレーションバスを運行します	【休止中】	ラッピングバス（観光地・地歌舞伎など）実施中 今年度は、デコレーションバスは、クリスマスバスの検討をしたが見送り （保幼小中高のインフルエンザ感染者数増加のため見送り）
2-5	地域公共交通の利用促進活動を行います	【継続実施】	福岡地区、付知地区でコミュニティバスお試し定期乗車券の配布し利用促進を実施。 蛭川地区、高齢者へのコミュニティバスの乗り方指導実施
2-6	経路検索の充実に向けたデータ整備を行います	【継続実施】	時刻表改正・バス停の位置変更にもとないGTFSデータを更新。
2-7	公共交通オープンデータを活用します	【継続実施】	にぎわいプラザバス待合室のデジタルサイネージによる発車順バス発車時刻案内を継続
2-8	にぎわいプラザバス待合所を改善します	【継続実施】	待合室のデジタルサイネージでわかりやすく発車順にバス発車時刻を案内。 現在、対応言語は、日本語と英語。今後その他言語についても検討。
3-1	運転手の採用に向けて取り組みます	【継続実施】	バス事業者による求人対象高校を拡大。 タクシー事業者による民間地域情報誌で求人案内を実施。 都市部での移住定住イベント時にフライヤーによるPRを実施。
3-2	女性限定の運転手体験会を開催します	【休止中】	近年の社会情勢により女性に限定した実施が難しい。 「限定」の文言を削除

3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

■ 地域公共交通計画における評価指標の考え方

- ✓ 網形成計画や地域公共交通計画に基づく各種事業実施を通じ、
 - ①いつまでも中津川市に住み続けられる（高校生が自宅から通うことができる）
 - ②住民や来訪者による公共交通利用者を確保する
 ことを定量的に示す評価指標を設定している。
- ✓ 地域公共交通確保維持改善計画における目標値は、地域公共交通計画の評価指標との整合性を図るため、補助対象系統ごとの利用者数を基準年度以上とした。
- ✓ 毎年度、評価数値に対する実績の評価、考察を行う。

■ 地域公共交通計画における定量的な評価指標

定量的な評価指標		①北恵那バス路線沿線地区内の高校生バス通学割合	②住民1人あたりの公共交通年間利用回数
基準年度	2021年度	25.3%	6.7回/人
目標年度	2026年度	25.3%以上	6.7回/人以上
実績【評価】	2022年度	27.8%【達成】	7.5回/人【達成】
	2023年度	26.0%【達成】	8.8回/人【達成】
参考 ※地域公共交通網形成計画目標値	2016年度	30.6%	8.6回/人
考察		沿線地区内の学生数は減少傾向にあるが、福岡・阿木地区の学生によるバス・電車通学が増加している。	- 新型コロナウイルスの5類移行後、回復傾向にある。特に馬籠線の利用者が約3万人増加しており、観光客利用が増えていることが推測される。 - 坂本三坂線が運行開始から2年が経過し、利用者が堅調に推移している。

■ 目標達成状況についての考察（路線別の事業評価概要）

- ・ 系統ごとに経年比較し、利用状況を把握
- ・ 網形成計画と整合性を図るため、目標値は系統ごとの利用者数を基準年度以上とする

区分	（上段）利用人数、（下段）達成率			主な考察・備考
	2021(基準)	2022(実績)	2023(実績)	
民間路線バス （補助系統）	253,025 -	262,633 103.8%	307,675 121.6%	○ 外国人労働者の定期的な通勤利用がある。 ○ 市による高校生バス通学定期購入補助の改正や周知により、 福岡・阿木地区の学生利用が増加 した。 ○ 新型コロナウイルスの5類移行後、回復傾向にあり、 馬籠線の利用者数が約3万人増加 している。
民間路線バス （非補助系統）	154,995 -	176,186 113.7%	208,388 134.4%	× 藤沢線、坂下田瀬線の利用者数が昨年の半分程度に減少している。学生数の減少、自家用車での送迎の影響が考えられる。
自主運行バス （廃止代替バス）	49,621 -	57,670 116.2%	68,050 137.1%	○ 坂本三坂線（東鉄バス中津川線廃止代替路線）が運行開始から2年以上が経過し、 堅調に推移 している。 ○ 小学生や高校生が通学、帰宅に利用できる便を設定した阿木・蛭川地区では、 学生の利用により し、堅調に推移している。
自主運行バス （コミバス）	19,623 -	23,306 118.8%	22,062 112.4%	× 頻繁に利用していた方が利用しなくなる。（ 利用者の高齢化 。認知症、施設へ入所、死亡など） × 新型コロナウイルスの影響により、5類移行後も利用者が減少後、利用者が戻っていない。
明知鉄道乗車数 （阿木・飯沼駅）	35,352 -	46,903 132.7%	50,735 143.5%	○ 新型コロナウイルスの影響により減少した学生による定期利用が、戻りつつある。 × 鉄道輸送人員は、コロナ禍前の2019年度と比較して 28.1%減少 したが、回復傾向にある。
合計	512,616	566,698	656,910	【参考】住民基本台帳人口（9月末） 2021（基準）76,553人 2022（実績）75,663人（▲1.2%） 2023（実績）74,601人（▲2.5%）

4.【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針 の作成

来訪者による公共交通利用を促進し、地域公共交通の維持に繋がります

地域資源を活用、移動と目的をセットに

課題

- ・ 新型コロナウイルス感染症の5類移行により、路線バスに乗り中津川駅前から馬籠宿、その後妻籠宿へ行く欧米からの個人旅行者は**回復傾向**にありますが、以前コロナ前の水準には戻っていません。
- ・ インバウンドだけでなく、国内観光客にも路線バスを利用してもらうことが必要です。



バスに乗る外国人観光客

教訓

- ・ 魅力ある路線づくりには、**この場でしか体験できない経験や景色**を組み合わせることが重要です。

対応

- ・ 苗木城線、馬籠線、付知峡線でフリー乗車券を販売しました。



苗木城フリー乗車券硬券

苗木城線フリー乗車券利用状況（2023年春）

往復利用153名 片道利用41名 計347名（去年同期比：209人増）

今後

- ・ 既存路線バスと地域観光資源を連携させた付加価値の高い観光商品を開発し、移動と目的をセットにした「**稼げる路線**」を創ります。
- ・ 市へ訪れる観光客に企画切符を利用してもらい、**地域公共交通の維持**に繋がります。

より利用したくなる路線に再編します

落合地区コミュニティバス再編を地域と検討

課題

- ・ 落合地区コミュニティバスの**利用者数は年々減少**しており、2022年度の利用者数は350人であり、コロナ禍前（2019年）の利用者数（752人）の**半数以下**になりました。

対応

- ・ **利用したくなる路線**にするため、行先に地域のお買い物先の追加、路線バスへの乗り継ぎの円滑化を地域と協議しました。
- ・ 年度内に地域との協議、事業者との調整を完了し、2024年10月から**運行開始**します。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	- 福岡地区及び蛭川地区の路線の見直しを行い、利用目的や利用したい施設等ニーズに合わせた公共交通に再編したことを評価します。 - 官民共同で新たなモビリティサービス「付知bin」の社会実験を行い、自動運転など新たな輸送サービスにつながる取り組みを行っていることを確認しました。	■コミュニティバスの再編 - 各地域の実情に応じ、ミーティングポイントの新設、廃止など、柔軟に対応しました。 ■自動運転「付知bin」 10月18日～29日に実証実験を行い、延べ617人の利用がありました。	■コミュニティバスの再編 - 今後も各地域の運行状況を注視し、適宜路線の改変、バス停（ミーティングポイント）の設置及び廃止を検討します。 - コミュニティバスのおでかけレポーターを地域ごとに作成、PRするなど、利用者数の増加を図ります。 ■自動運転「付知bin」 - 既存の公共交通との連携の可能性を検討します。
前々回	- 廃止代替手段として運行を開始した坂本三坂線について、市民病院の利用を取り込むなどの見直しを行った結果、以前の運行路線よりも利用者が増加していることを評価します。 - 福岡地区の路線の見直しについて、地区バス検討委員会を開催し、課題の把握や利用状況調査を行ったことを確認しました。	■福岡地区コミュニティバス - 路線を見直し、令和4年10月から新しい路線で運行を開始しました。	■福岡地区コミュニティバス - 順調に運行を開始し、今後も運行状況を注視します。 - 新規の利用者が増え始めています。 - 地域住民への周知と更なる意見収集のため、コミュニティバスのモニター乗車の実施を検討しています。

※前回：令和5年3月10日、前々回：令和4年3月10日

6.計画・評価の推進体制

■ 地域公共交通計画・目標の評価スケジュール及び直近の公共交通会議開催状況

令和5年度

第1回 令和5年6月23日

議題1 自家用有償旅客運送（市町村福祉有償輸送）の更新について

承認

議題2 自家用有償旅客運送（公共交通空白地有償運送）の更新について

承認

議題3 令和6年度生活交通確保維持改善計画について

承認

⇒どの系統が危機的状況にあるのか、補助がなくなっても維持をするのか、補助をもらうために利用してもらうように働きかけるのか、系統ごとに整理を。

第2回 令和5年9月21日

議題1 神坂PAスマートIC工事に伴う北恵那バス馬籠線の迂回運行について

承認

議題2 神坂地区コミュニティバスの再編について

承認

第3回 令和5年12月26日

議題1 中津川市地域公共交通計画の改定について

承認

議題2 地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について

承認

⇒自己評価について、国の要件を満たしているかどうかをABCで評価できるといい。

⇒次年度の改善とする。

⇒高校生が使いやすくなるように、区間便の設置や、帰りのバスを待つ環境の整備を検討してほしい。

⇒中津川市ひと・まちテラスができたことにより、高校生等が快適にバスを待つ環境が整備できたと認識している。

中運交企第191号
令和6年3月21日

中津川市公共交通会議
会長 渡邊 卓 殿

中部運輸局長
(公印省略)

令和4・5年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について(通知)

日頃より国土交通行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、先般報告された標記事業にかかる一次評価について、これを基に二次評価を行ったため、別紙のとおり通知します。

なお、二次評価結果は協議会等において共有するとともに、次年度以降の計画等に反映いただくようお願いいたします。

【問合せ先】
中部運輸局交通政策部 交通企画課
TEL: 052-952-8006

自治体・協議会名	中津川市公共交通会議
評価対象事業	地域内フィーダー系統

二次評価結果

評価できる取組

- ・令和5年10月に自動運転バス「付知bin」の実証実験やシンポジウム「自動走行と山林都市」を開催され、リニア岐阜県新駅の波及効果も見据えた議論・検討がされていることを確認しました。
- ・利用率の低い福岡地区と付知地区において、乗って知ってもらうことを第一段階と捉え、1ヶ月の無料定期券を22人に配布し延べ40人が定期券を利用され、新規利用者獲得の支えとなったことを評価します。
- ・神坂スマートIC工事にともない、市街地に向かう公共交通が無くなることから、コミュニティバスの路線を延伸し、神坂地区と落合地区をつなぐ路線に再編されたことを評価します。
- ・高校生バスの通学補助金を拡充し、新たな定期券利用者の確保につながったことを評価します。

期待する取組

- ・コミュニティバス無料定期券の配布については、その後の公共交通利用に係る行動変容につながったかなどの効果検証を通じ、その検証結果が今後の取組に活用されることを期待します。
- ・観光客の利用者数が馬籠線において増加しており、この増加が他路線の利用増加にもつながるよう検証・分析の上、更なる増加等に向けて検討・実施されることを期待します。
- ・福岡・阿木地区の学生によるバス・電車通学が増加しているので、必要に応じ、バス待ち環境の改善等について、学生の声に耳を傾けて取り組まれることを期待します。
- ・落合地区コミュニティバスの利用者の減少傾向に対し、今後、地域の声を踏まえた再編等に取り組まれ、ニーズの高い目的地に行けるルート設定や路線バスへの乗り継ぎの円滑化などにより利便性の向上につながることを期待します。
- ・コミュニティバスの利用者増加に向けて、利用者のニーズに合わせることに加えて、各地区の魅力も合わせてPRされることを期待します。
- ・リニア岐阜県新駅に係るアクセス交通のあり方について、引き続き、関係機関との検討を進めることを期待します。

二次評価結果に対する中津川市の対応

・コミュニティバス無料定期券の配布については、その後の公共交通利用に係る行動変容につながったかなどの効果検証を通じ、その検証結果が今後の取組に活用されることを期待します。

→月毎利用者数のデータにより、本取組により新規利用者が増えたことを分析しております。今年度もコミュニティバスの期間限定無料乗車を行い、新規利用者の獲得に努めます。

・観光客の利用者数が馬籠線において増加しており、この増加が他路線の利用増加にもつながるよう検証・分析の上、更なる増加等に向けて検討・実施されることを期待します。

→関係機関と連携し、検証を進めてまいります。

・福岡・阿木地区の学生によるバス・電車通学が増加しているので、必要に応じ、バス待ち環境の改善等について、学生の声に耳を傾けて取り組まれることを期待します。

→令和5年7月、街中に「中津川市ひと・まちテラス」をオープンし、学生のバス待ち環境について向上したと認識しております。今後の更なる向上や、個別のバス停のバス待ち環境については、今後も学生の声に耳を傾けてまいります。

・落合地区コミュニティバスの利用者の減少傾向に対し、今後、地域の声を踏まえた再編等に取り組まれ、ニーズの高い目的地に行けるルート設定や路線バスへの乗り継ぎの円滑化などにより利便性の向上につながることを期待します。

→これまで地域と審議してきた結果を踏まえ、令和6年10月から時刻表、ルートを改編し運行を行います。

・コミュニティバスの利用者増加に向けて、利用者のニーズに合わせることに加えて、各地区の魅力も合わせてPRされることを期待します。

→コミュニティバスと利用者の目的を合わせた「おでかけレポーター」を考案し、市HP等でPRしていきます。

・リニア岐阜県新駅に係るアクセス交通のあり方について、引き続き、関係機関との検討を進めることを期待します。

→引き続き、関係機関と連携して検討を進めてまいります。